２０1８年〇月吉日

〇〇〇〇〇　　　　　教育委員会

教育長　様

学校図書館職員担当者　様

学校図書館問題研究会

代　　 　表 〇〇　　〇〇

〇〇支部長 〇〇　　〇〇

学校司書配置状況アンケート調査結果の送付について

拝啓　向暑の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は教育行政及び学校図書館充実にご尽力いただき感謝申し上げます。

さて、昨年度実施しました、学校図書館問題研究会の「学校司書配置状況アンケート」に多大なるご協力をいただきました。改めてお礼申し上げます。

このたび、結果が集計できました。下記の通り、集約及び本会分析を送付いたします。ご査収のほどよろしくお願いいたします。貴自治体の学校図書館施策の一助になれば幸いです。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　敬具

 記

1.「学校司書配置状況アンケート」結果一覧（別紙）をご覧ください。

　２.学校司書配置状況結果の分析と課題

　　　①回答結果

兵庫県下41 市町村教育委員会に支部会員が電話、FAX、メール、郵送にて学校司書の配置状況について調査を行いました(2017年12月～2018年４月）。41市町村から回答がありました（回答率100％)。そのうち、公開可37、公開不可４でした。

 　　以降は、公開可の37市町村のデータをもとに報告いたします。

②雇用の形態

直接雇用は、神戸市・明石市・芦屋市・尼崎市・淡路市・伊丹市・川西市・三田市・宍粟市・

宝塚市・姫路市・南あわじ市・猪名川町・上郡町・新温泉町の1５市町村。外部委託１、無配置21でした。

③結果の分析と課題

○兵庫県でも、2015年4月の学校司書を置くよう努める「学校図書館法の一部改正」施行後、学校司書の配置や増員が徐々に進んでいる。

○兵庫県で小中学校に学校司書を配置している自治体が、16あるが、配置されていない自治体は21であり、配置されていない自治体の数の方が多い。

○直接雇用の自治体が15あるが、一校専任、全校配置は３自治体のみ。

○雇用状況は、1自治体のみ正規雇用となっているが、教諭との兼務であり、学校司書としての正規雇用ではない。他は非正規雇用。

○複数校兼務もあるので、一校当たりで考えると、週5日のところは3自治体のみであり、それ以外は、週２～３日が多い。 時間も１日５時間を超えるところは少なく、１日２～４時間のところもある。

○契約の更新も、学期ごと1 年ごとなど継続性がなく非常に不安定な状態である。

○研修や司書連絡会が全くない、あるいは年に　２～３回しかないところがほとんどである。

○司書配置のないところでは、司書教諭、担当教員、ボランティアが担当している。

《課題》

　　　　　○アンケート調査結果によると、兵庫県下では、学校司書配置が徐々に進んできてはいるものの、学校司書が先生方と共に学校教育に資する活動をするには十分な配置条件とは言えません。どこの学校に行く子どもたちも同じ学校図書館サービスが受けられるように、全校配置をめざすことが求められますが、一校専任の全校配置をしているのは３自治体だけです。また、子どもたちが学校にいる間は常時開館できること、仕事内容の向上をはかるための研修制度を保障することも、学校図書館を活かした教育を行うためには大変重要な要素ですが、ほとんどのところはまだその段階に至っていません。

〇2017年度から文科省の第4次学校図書館整備等5カ年計画が策定されていますが、地方交付税として配当されている予算が、本来の目的である、学校図書館の充実、学校図書館への新聞配備、学校司書の配置に使用されていないという現実があります。もし、貴市において申請されていない場合は、獲得し活用することをご検討ください。

　 〇学校図書館は、子供たちの確かな学びや豊かな心を育む、学校における読書センター・学習センター・情報センターとして重要な役割があります。文部科学省が推進する「主体的・対話的で深い学び」のためにも、学校図書館の充実が必須です。また、学校図書館は子供たちの居場所としての機能も求められています。そうした学校図書館の環境整備のためには、本を知り、子供を知り、本と子供をつなぐ学校司書の存在が重要です。今後も、行政・議会の尽力で、学校司書配置をさらに押し進めていただくことを、期待します。

なお、今回の調査結果は、学校図書館問題研究会HPで公開しております。

以　　上

この件についての問い合わせなどがありましたら，以下にお願いします。

 学校図書館問題研究会兵庫支部メール：gakuto\_hyogo@yahoo.co.jp